



一字一字心を込めて 書き初め大会



1月18日(土)、19日(日)に、岡崎市美術館にて岡崎市書き初め展が行われます。岡崎市内の各小中学校の代表作品が展示されるので、館内は美しい字でいっぱいになり、感動溢れる空間となります。ぜひ、家族で作品鑑賞に行き、今後の参考にしてみてください。

また、1月23日(木)には、校内書き初め展が行われます。子供たちが新年早々気持ち



ちも新たに登校

し、校内書き初め大会で心を落ち着かせ、手本をよく見ながら一字一字丁寧に書いた硬筆や毛筆が飾られます。これも大変楽しみです。子供たちが心を込めて書いた素敵な作品が廊下に飾られていますので、保護者の皆様は、ぜひご覧ください。

大震災から学ぶ 人の大切さ



ちょうど30年前の1月17日、阪神・淡路大震災が発生しました。

淡路島北部で最大震度7を記録する地震が発生し、神戸市を中心とした阪神地域や震源に近い淡路島北部では、建物の倒壊や大規模な火災が相次ぎ、死者は6434人に達しました。今朝、神戸市が主催した「追悼の集い」が開かれ、震災で母親と弟を亡くした神戸市の男性が、遺族の代表としてあいさつしました。その一部を抜粋させていただきます。

「阪神・淡路大震災が発生した30年前の今日、私は小学校2年生でした。その当時、古い木造2階建てのアパートの1階の部屋に、父と母、年子の弟、1歳半の弟、そして私の、家族5人で住んでいました。震災が発生し、アパートの2階部分が1階に落ちてきて、1階の部屋は押しつぶされました。父と年子の弟と私は、押しつぶされた家の隙間にいて奇跡的に助かりましたが、母と1歳半の弟は大きな洋服ダンスの下敷きになり、亡くなりました。それを知ったとき、私はとても後悔しました。『どうして、もっと母を優しくいたわることができなかったのだろう。どうして、もっと弟と一緒に遊んであげられなかったのだろう。もっと、母と弟の笑顔が見たかった。もっと、母と弟と一緒にいたかった』そのとき、私は初めて知りました。今、自分の周りにいてくれる大切な人は、いて当たり前じゃない。一瞬にしていなくなってしまうこともあるのだということ。家族や親戚、友達といった、自分の周りにいる人のありがたさ。そして日常のありがたさを身をもって知りました。『後悔のないよう、一日一日を大切に生きよう。自分を支えてくれている周りの人に目を向け、感謝の気持ちを伝えよう』このことを胸に刻み、この30年間、生きてきました。(中略)

私の母と弟はダンスの下敷きになって亡くなりました。家具の固定をしっかりしていれば、命は助かったかもしれない。また、震災後すぐは食べ物や飲み物がなく、何も食べられない日がありました。避難リュックを用意していれば困らずに済んだかもしれません。今年の灯籠の文字『よりそう』のように、被災者の気持ちに寄り添い、話を聞くことで、災害を『自分事として捉える』こと。そして『今自分にできることは何か』を考える、つまりは『防災・減災のスタートラインに立つ』ということが大切だと思います。ここ神戸に住む震災を知らない世代だけでなく、より多くの方々に防災・減災のスタートラインに立つてもらえるよう、これからも震災から得た教訓を語り継いでいきます」

☆保護者の皆様へ 1月23日(木)に、授業参観および校内書き初め展を行います。お子様の授業中や青空タイムの様子、書き初めの作品を、ぜひご覧ください。